

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム福寿草Ⅱ(大地ユニット)	評価実施年月日	平成20年4月1日～平成20年5月1日
評価実施構成員氏名	野村 まゆみ・澤田 敏子・国田 利恵・渡邊 郁子・成田 法卓・森田 由美子・嶋村 奈々		
記録者氏名	野村 まゆみ	記録年月日	平成20年5月31日

北海道

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	一人を大切に、支え合う心、安心して暮らせる社会作り、を法人理念として掲げ、入居者一人一人がその人らしく、生活できる事を目標に日々取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎日の申し送りや、カンファレンス、ケアの場面で理念に基づいた実践が出来るよう話し合いながら日々取り組んでいる。	○	具体的なケアの場面で、しっかり理念を確認しあいながら日々理念の実践に向けて取り組み続けていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族会や御家族の訪問時に具体的な様子をお話しし、法人の理念に基づいた実践にどう取り組んでいるのかをお伝えしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時、通勤の行き帰りなど、隣近所の方々に、積極的にあいさつするなど努めている。また、散歩の際にお花を頂いたりする事もある。	○	気軽に声を掛けあえる関係をしっかり作り、地域の中で暮らす事の大切さを更に、隣近所にも伝えていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入しており、町内会行事には出来る限り参加し、地域の一員として地域の方々と交流できるよう努めている。	○	地域活動にも積極的に参加していきたいが、入居されている方々の状態も変化しておりなかなか難しくなっている。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会役員の方にも、構成メンバーになっていただいているが、運営推進会議で地域の高齢者の暮らしに役立つ情報や取り組みを話し合っている。	○	更に暮らしに密着した情報や取り組みをどう具体化していくのかを推進会議を活用し考えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
○評価の意義の理解と活用 7 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価する事で、日常のケアの振り返りが出来る事を職員一人一人が理解し、その具体的な結果から改善に取り組む機会としている。		
○運営推進会議を活かした取り組み 8 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議において、日常的な取り組みや評価への取り組み改善など、その状況に関して、報告し、話し合いながら更に質の向上を目指す機会としている。	○	具体的サービス向上を図るために、地域連携が重要であり、その為には町内、地域との協力がはかれるよう会議で話し合いを続けていきたい。
○市町村との連携 9 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市主催のグループホーム管理者会議や研修、また在宅ケア連絡会にも積極的に参加し、他機関との連携をはかれるよう努めている。		
○権利擁護に関する制度の理解と活用 10 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	制度の理解が出来るよう、研修への参加を積極的に行い、また、入居者の状況に適切に対応出来るよう、制度を活用している。	○	研修の機会があれば、更に理解を深めるため、引き続き参加、活用できるよう検討したい。
○虐待の防止の徹底 11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社外で実施されている研修への参加、及び通達を確認しながら職員への周知を行っている。また、研修内容を職員へ伝達し意識づけを行い防止の徹底を図っている。	○	上記同様
4. 理念を実践するための体制			
○契約に関する説明と納得 12 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	日常的にも疑問や不安等があれば充分話し合い、その理解や解消に努めている。また、入院や退去などその都度話し合いを行い、理解、納得を得られるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意思表示が困難で、入居者の意志・意向を捉える事は難しいが、表情や目の動きなど細かな観察でその思いをしっかりと表出出来るような、働きがけ支援を行い運営に反映できるように努めている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	家族連絡ノートを活用の他、月一回御家族へのお便りを送付し、入居者の状態を伝えている。又、金銭面、職員の移動に関しても来訪時随時報告している。緊急時や遠方に住んでいる御家族へは、電話連絡を行っている。	○	職員の移動に関してはお便り他、経営者からも経緯等しっかりお知らせしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族連絡ノートを活用し、気軽に意見、要請を伝えて頂けるよう努力している。又、家族会で出された意見はスタッフに周知し事業所の運営に反映できるよう努めている。	○	家族会を定期的に持ち職員や外部者に意見を表せる機会を作っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にスタッフ会議を持ち、又、社内の研修会等で意見や提案を聞くように努めている。又、日常の業務でも意見が出されるようスタッフノートを活用している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の生活時間に合わせ、シフトを組み必要に応じて体制の変更を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	十分配慮し、管理会議で移動時期を検討、入居者へのダメージを極力抑える努力を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内でのスタッフ研修や外部研修への参加は積極的に行っており、参加後は報告会で研修内容の共有を図っている。経験や段階に応じた年間の研修計画を立て実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	区の連絡会への参加や全国組織のネットワークを築いており、相互間の研修(見学も含む)を協同して実施し人材の育成やケアの質の向上を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日常的に相談できる機会や場を作り、積極的に職員に働きかけている。(コミュニケーションをとる)又、経営者は各職場に赴き職場環境の改善等に取り組んでいる。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	現場の状況を把握し、職員一人一人の課題整理ができるようアドバイスしている。業務の見直しや、働く者の状況にあった励ましや、助言を行っており常に働き易い職場作りに努めている。	○	経営者のみでなく職員一人一人が向上心を持って働けるよう意識づけていく事を考えていきたい。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前から、家庭訪問を行い充分話し合う機会を作っている。又、入居される生活の場を出来る限り見て頂けるようホームに出向いていただくことも行っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	同上、御家族とも充分に話し合えるよう、努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたら、すぐ入居につなげるのではなく、今何の支援を必要としているのか十分に話をうかがい緊急性の有無を確認し、又、他サービス利用も踏まえた対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に、何回か遊びに来て頂くなど、御家族とも相談しながらどんな形で入居へつなげていくのかを検討しながらすすめている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者から、学びを得る事は多々あり、職員はその入居者に感謝の気持ちを持ちながら接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族や職員の話も交えながら、入居者自身を中心とした関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族来訪時、共に良い時間を過ごせるよう入居者の日頃の様子や、思いを代弁しお伝えしてる。又、外出なども出来る限り一緒に出かけられるよう配慮している。また、家族ノートの活用など。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人が思いを直接伝えられない事が多く、家族を通じて働きかけてもらうなど支援している。	○	一人一人の状態に見合った方法を検討し、家族と共に相談しながら支援を進めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	本人の状態や周囲の環境に応じ、他者とまじわったり、職員が個別に対応するなど、ひとりで孤立する事のないよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	今までの関係はこれからも継続する事を伝え、気軽に立ち寄ってもらえるよう働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の立場に立ったケアプランの立案、実践、評価を通して思いや意向をしっかり捉える努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を利用し、これまでの生活を家族からも伺えるよう、働きかけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式の利用、又日常的な申し送りや記録で一人一人の日々の様子を職員全員で総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	チーム、家族、本人(難しい場合は本人の意向)を含めて協同で作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じ見直しを行っており、又、本人の変化が生じた時にはその都度対応を検討し、プランの修正を行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画に基づいた実践を日々記録しており、その結果をプランの見直しにつなげていく努力をしている。	○	入居者一人ひとりの記録をさらに充実(実践、結果、評価)させる努力を続けたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療との連携。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域消防団の訪問。町内会からの運営推進会議への参加。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問美容の利用。はりマッサージなどのサービスの利用		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議で情報交換している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得がえられたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による月2回の定期往診の他、必要に応じて往診していただき、又、本人や御家族の希望や必要に応じ、専門医への受診を行っている。常にかかりつけ医、家族と連絡を取り合い、本人の状態に見合った支援を行っている。	○	必要に応じ、往診時に御家族に同席していただき、本人の状態や医療に対する希望、質問など出していただき、その時々に適した対応ができる様、話し合う場を設けている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	同上。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日常の健康管理や助言、対応を行い支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	早期退院を第一に相談し、必要な情報を交換、共有しつつ、入院中も安心して過ごせるよう配慮、支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状態に応じ、早い段階から、かかりつけ医、経営者、管理者と家族で、随時話し合いの場を設け、その都度方針を確認しあっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の立場に立ち、今、本人が何を望み、どう暮らせるのかを考えながら、ホームで「できること」や今後予測される状況や変化などを確認しつつ、その変化に対してどこまで対応できるか、家族の要望とあわせ、常に話し合い、検討・対応している。	○	更にきめ細かく、話し合いをもち家族の思いの変化にも対応し、配慮できるよう努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	リロケーションダメージを最小限にし、本人が困惑、混乱しないよう、必要な情報を事前に交換している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	トイレ、入浴など、他者の目にふれないよう細心の注意を払うことはもちろんのこと、排泄の有無については記号化して本人のプライドを傷つけないよう配慮。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	すべてにおいて、自己決定は難しいが、表情や仕草から気持ちを読み取り、可能な限り意向を確認しながら支援する様努力している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせ、必要な支援を行っている。また、本人のペースを尊重しつつ体力や、状態にあわせた生活の組み立ても考え支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	必要に応じ、訪問美容を利用し、ひとりひとりが大切にしているおしゃれや身だしなみを支援している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みを取り入れたメニュー作りと、箸やスプーンなど自ら食べられる様な工夫をし、食べる楽しみが継続するよう支援している。また、職員と一緒に食事している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	嗜好をメニューに取り入れ、一人ひとりの好みにあったものを提供できるよう努力している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンや排泄のメカニズムをしっかり理解し、トイレでの排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	心身の状態を把握し、配慮しながら実施している。また、本人の意向がは捉え辛いが納得して心地よい入浴が出来るよう、支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室で休めないとき、職員が添い寝したり、リビングで一緒に過ごしながらの休息など、一人ひとりにあった方法や環境を把握し対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	外気にふれたり、外を眺めたりする時間や好みの音楽を聴くなど、暮らしの中で自然に出来る支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実際にお金を使うことはないが、本人の安心につながる支援の方法を検討している。(お財布に小額のお金を入れて、身の回りにおいておくだけで安心する)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日や、入居者の状態に合わせて外の空気を吸ったり、風に当たるなど、支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたく普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と相談しながら、花見、町内会のお祭りに参加するなどすすめている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	実際には困難であるが、家族に生活の様子や、日常的な会話などを伝え支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問していただけるよう声かけを行い、来訪時には気兼ねなく過ごせるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はせず、センサーで対応。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	チャイムをつけ、自由な出入を行っているが出入の際には必ず確認をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼 夜通して利用者の所在や様子を把握し、安 全に配慮している。	居室にセンサーを置き、転倒防止、安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのでは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防 ぐ取り組みをしている。	一人ひとりの状態や場面に合わせ、危険のないようしっかり目配りし、対応してい る。(生活に必要な物を排除するのではなく、状態に応じて対応)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態をしっかり把握し、危険リスクを確認、その上で必要な対応をチー ムで検討実践している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全 ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定 期的に行っている。	対応マニュアルに沿って実施している。場面場面でケアの具体的方法や、視点を確 認している。	○	急変・事故対応の研修も組み込んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を 問わず利用者が避難できる方法を身につ け、日ごろより地域の人々の協力を得られ るよう働きかけている。	防火訓練を定期的に行い、具体的な避難対応を入居者と共に実施している。	○	運営推進会議で協力体制が取れるよう、検討・確認していきたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家 族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切 にした対応策を話し合っている。	日々の状態の変化はあり、その都度家族に説明、特に対応の変化が必要なとき は、何故そうするのか、誰のために必要なのかを理解してもらえよう、話し合っ ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日々の観察と状態把握をしっかりと行い、その変化をチームで共有。医療職と連携をとり、迅速な対応が出来る体制をとっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の重要性をしっかりと理解し、効能と副作用についてチームで確認、その変化の有無をしっかりと把握できるよう努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	乳製品やオリゴ糖等、食物で対応できるよう工夫しており、入居者の排便リズムやメカニズムを知り、一人ひとりの状態にあった方法をとっている。また、水分チェックを行い、対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	入居者の状態に合わせた方法で、支援している。(口腔ケア用ガーゼ、スポンジの使用など) また、歯科医からケアの方法を伝達、実施している。	○	歯科医との連携
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取量、水分量をしっかりと把握し、チームで情報を共有しながら必要なときに必要な物をしっかりと取れるよう対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)。	対応マニュアルに沿って実施。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	日々の食物管理と定期清掃・消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りの掃除や、はなの手入れを行い、夏には花のプランターを置いている。また、玄関内に装飾を施し、親しみやすさを工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節や、行事にあった花やタペストリーで雰囲気作りに努め、絵画や適切な明かりで安心感が持てるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室の縁側、ソファで他者と離れ過ごす事ができるよう工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の馴染みの物を持って来てもらい、居室内で心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	日常的に外気温、室温を把握し換気を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	テーブルや椅子の形や配置を工夫し、安全でかつ自分の力を発揮して生活できるよう、心がけている。(状態や状況に合わせて配置を変える)	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	雑誌やビデオ、テレビなどの活用や窓外の景色、動きなど視覚的な環境や音楽などを聴いて歌を歌うなど、持っている力を活かせる工夫をしている。	
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	居間からテラスにそのまま出て行けるよう、椅子を設置したり花を置いたり、畑に作物を作るなど楽しめる工夫している。	

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	③利用者の1／3くらい
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	③たまに
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	②少しずつ増えている
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	②利用者の2／3くらいが
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	②家族等の2／3くらいが

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
一人ひとりのお年寄の生活を、しっかり捉えてその人らしい生活が、最後まで送られるようにセンター方式を使いながら、定期的に見直してその人にあった支援に取り組んでいる。